

埼玉ブロンコスと連携協定を締結しました。

平成26年2月7日(金)、本学は、プロバスケットボールチーム埼玉ブロンコスとの間で、双方が保有する資産や情報、ノウハウを用いて相互に協力し地域社会の発展に貢献することを目的とした協定を締結いたしました。

今後は、埼玉ブロンコス関係者(選手、コーチ、スタッフ)による公開セミナーやバスケットボールおよびダンス教室の開催などを予定しています。また、試合のオープニングセレモニーにおいて、本学学生サークルの発表の場の提供も計画されています。

締結式の翌日の試合には、学生、教職員とともに埼玉大学マスコットキャラクター「メリンちゃん」が応援に駆けつけ、盛り上がりを見せた試合はブロンコスの勝利で幕を閉じました。



ブロンコスの応援に「メリンちゃん」も参加



85対78にてブロンコス勝利!!

埼玉大学・埼玉ブロンコス 協定締結



協定書を披露する上井学長(当時)と成田社長



本学大学院教育学研究科に4月から入学した小野寺選手を囲んで

「トビタテ!フォーチュンクッキー留学JAPANバージョン」 ミュージックビデオに本学も参加しました!

文部科学省の留学促進キャンペーン「トビタテ!留学JAPAN」の施策の一環として制作された、AKB48の「恋するフォーチュンクッキー」の替え歌となる留学応援ソング「トビタテ!フォーチュンクッキー」のミュージックビデオに、本学もアイドルダンスサークルの「SKR48」の学生とメリンちゃんが参加しました。ミュージックビデオはグローバル人材育成推進事業に採択されている大学の学生ダンス映像と、AKB48メンバーによるダンス映像や、文部科学省関係者によるダンス映像などが合わせて編集されています。



撮影後、メリンちゃんと記念撮影



ダンス映像は、下記の文部科学省のサイトから見ることができます。是非ご覧下さい。
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/26/02/1344307.htm



NewsLetter

共生のVision 知と技を社会につなぐ



新学長
からの
ご挨拶

「埼玉大学って、いいね」と、 自他共に言える大学にするために。

埼玉大学長 山口 宏樹

CONTENTS

- Preview Point
埼玉大学の国立大学改革強化推進事業
学部の枠を越えた再編・連携による大学改革 01
～ミッションの再定義に基づく研究力と人材育成の強化～
- ここに注目! Close up
可視化された運動データを活用する
リハビリ支援ロボット 03
大学院理工学研究科 数理電子情報部門 辻 俊明 准教授
- Message from a graduate
卒業生からのメッセージ 04
作家 古屋 祐輔
- Information I
埼玉大学学生後援会は
埼大生を多方面から支援しています 05
- The pride of SU
日本で世界で活躍する埼大生 06
- New Wind
広報室に新たな風
「学生サポートスタッフ」発足 07
- Interview to an international student
留学生インタビュー 08
国費留学生(日本語・日本文化研修留学生) 経済学部
MURADLI AYDAN(ムラドリ アイダン)
- Focus of activation
埼玉大学の主な出来事 09

埼玉大学の国立大学改革強化推進事業 (平成25年度～平成30年度)

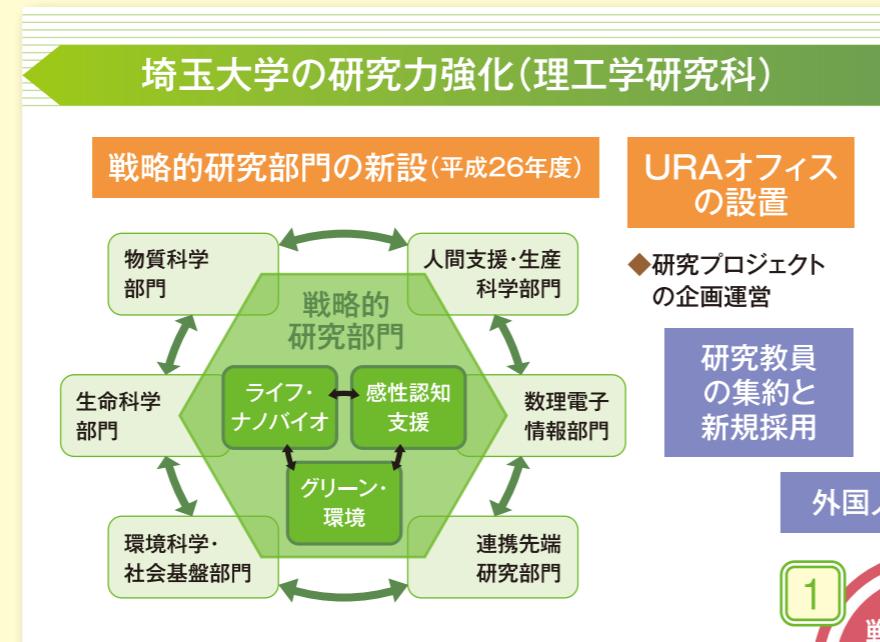
学部の枠を越えた再編・連携による大学改革 ～ミッションの再定義に基づく研究力と人材育成の強化～

大学改革への期待や社会的要請が高まっている昨今、埼玉大学では本学の強み・特色を最大限に生かした機能強化について、すべての学部・研究科を巻き込むトータル・パッケージとしての改革プランを策定しました。

本改革では、強みを有する研究分野への資源集中による「①埼玉大学の研究力強化」、組織の再編や入学定員の見直しによる「②理工系人材育成の量的・質的強化」、「③人文社会系人材育成の質的強化」、「④教員養成の質的強化」を改革の4本柱に掲げ、学部の枠を越えた、研究力強化、人材育成の強化を推進していきます。

1 埼玉大学の研究力強化

学内各研究センターを再編・統合して理工学研究科に教員を集約するとともに、戦略的研究部門（ライフ・ナノバイオ領域、グリーン・環境領域、感性認知支援領域）を新設し、強みを有する分野に資源を集中します。戦略的研究部門の領域は固定せず、部門・領域を越えた研究プロジェクトの企画運営を行うため、全学組織として設置したURA（リサーチ・アドミニストレーター）オフィスとの連携によるダイナミックな研究展開を目指します。



人文社会系人材育成の質的強化

◆グローバルな人社系人材育成の強化
◆研究プロジェクトの企画運営
◆研究教員の集約と新規採用
◆外国人教員の採用

経済学部 教養学部

経済科学研究科 文化科学研究科

人文社会科学研究科 (平成27年度)

人文社会科学研究科への再編統合

◆社会人の学び直し機能の強化

経済学部夜間主コースの見直し

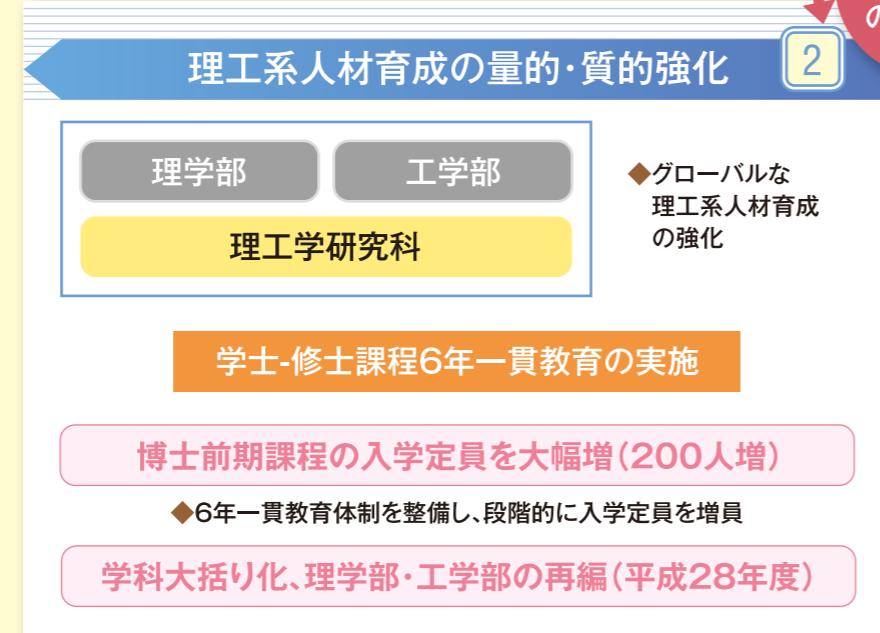
◆夜間主コースでの学修時間の確保と教育の質保証

3 人文社会系人材育成の質的強化

文化科学研究科と経済科学研究科を統合して、ひとつの人文社会科学研究科に再編成するとともに、教養学部・経済学部それぞれの所属教員を大学院の研究科に集約させ、教育・研究両面における連携融合の促進を図ります。グローバル人材育成推進のための外国人教員の採用や社会人の学び直し機能の強化、教養学部のカリキュラム改革、経済学部の学科再編なども行い、人社系人材育成の質的強化を図っていきます。

2 理工系人材育成の量的・質的強化

理工学研究科博士前期課程の入学定員の増員（5年間で200人の増員予定）を図ります。それと同時に戦略構築力と国際化対応力、さらには人社系リテラシーを兼ね備えたイノベーション人材を育成するために、修士まで6年一貫の教育プログラムを実施し強化を図ります。また、現行の理学部5学科、工学部7学科のくくりを見直し、理工系人材育成に適した組織再編を進めています。



4 教員養成の質的強化

◆質の高い教員養成の強化

教育学部(480人→380人)

教育学研究科

教職大学院の設置(平成28年度)

◆暫定修士課程を併存させて、段階的に教職大学院に移行

教員採用需要を見据えて入学定員を減(100人減)

◆小学校教員養成へシフト

◆各学部・研究科との連携による教員養成

■全学の教育の質的転換

本改革に先行して、学士課程教育の質的転換に着手しています。平成24年度末の全学合意によって、単位の実質化・授業科目の設計転換・カリキュラムの体系化・厳格な成績評価という、4つの課題を連関させ循環させる教育の質的転換を開始しています。

全学の教育の質的転換

- ①単位の実質化：標準学修時間(1単位45H)の明確化、CAP制の見直し
- ②授業科目の設計転換：事前・事後学修を前提とした到達目標の再設定、工程表としてのシラバスの策定
- ③カリキュラムの体系化：ナンバリングシステムの導入、カリキュラムマップの再構築
- ④厳格な成績評価：評点基準を明確にしたGP評価、成績分布の検証

可視化された運動データを活用する リハビリ支援ロボット



大学院理工学研究科 数理電子情報部門

辻 俊明 準教授

PROFILE

2003年 3月 慶應義塾大学大学院理工学研究科
総合デザイン工学専攻前期博士課程修了
2006年 3月 慶應義塾大学大学院理工学研究科
総合デザイン工学専攻後期博士課程修了
博士(工学)
2006年 4月 東京理科大学工学部第一部機械工学科嘱託助手
2007年 4月 埼玉大学大学院理工学研究科数理電子情報部門助教
2009年10月 JSTさきがけ(情報環境と人)兼任研究員
2012年 3月 埼玉大学大学院理工学研究科数理電子情報部門
准教授

受賞歴

2007年 3月 ファナックFAロボット財団論文賞
(ファナックFAロボット財団)
2008年 3月 ファナックFAロボット財団論文賞
(ファナックFAロボット財団)
2009年 9月 優秀論文発表賞(電気学会)
2010年 1月 優秀論文発表賞(電気学会産業計測技術委員会)
2010年 9月 研究奨励賞(日本ロボット学会)
2011年 4月 日本機械学会賞(論文)(日本機械学会)
2014年 4月 日本機械学会奨励賞(研究)(日本機械学会)
他

現場ではなかなか使いづらい
ロボット

リハビリ支援ロボットは人の運動能力の改善を目的とするものであり、人に装着した状態で人を誘導したり時には負荷を与えてから訓練を支援します。ロボットという言葉から多くの方々は超高齢化社会を救う期待の技術とのイメージを持つかも知れません。しかし、実際には今のロボットは療法士の技量に遠く及ばず、コストが高いなどの課題から、必ずしも医療現場において活用されている例は多くありません。ロボット技術は同じ製品を量産するのに適していますが、体格・筋力・症状等あらゆる条件に個体差のある人を扱う訓練で、ロボットが療法士の労働力をそのまま代替するには解決すべき課題があまりに多いといえます。そのため、人の作業の代替にこだわらず、ロボットの特長を活かした付加価値をリハビリ支援ロボットに与える技術開発をすべきといえます。言い換えれば、ロボットだからこそ実現できる運動療法の新たなサービスが生み出されることで、医療現場へのロボット技術の浸透が進むと考えられます。

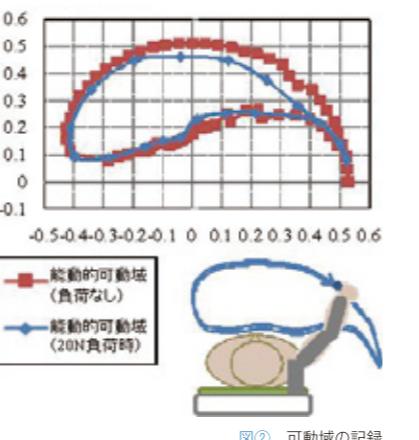
運動を記録して“見える化”す
る技術

そこで、本研究室では計測と記録が簡単にできるというロボットの特長を活かし、力覚センサの情報から筋力、訓練効果などの情報を抽出・可視化するシステムを開発しています。



図(画像)① AR技術で腕の筋力を可視化

器を使って肩やひじの可動域をひとつずつ順に記録していましたが、ロボットを使えば従来法よりも短時間で詳細なデータが得られます。本来人の四肢の可動域は空間的分布を持つものなので、ロボットを用いた可動域試験によって、より詳細な測定ができるようになり、その分布を見やすく人に提示することが可能になります。



これらの技術はセンサを介して得られた精緻なデータを、CG技術などを駆使して“見える化”する例を示しています。また、インターネットを介してさまざまな訓練者のデータを集めて処理すれば、統計データとの比較結果が“見える化”され、よりよい訓練の計画に役立てられるようになります。このように“見える化”は訓練の意欲向上し、直感的な状況把握を可能にする効果が得られるため、超高齢化社会の未病予防やリハビリに資する技術になると期待し、引き続き研究を進めているところです。

次に図②は上記のロボットを用いた多次元関節可動域試験の結果です。時系列で保存された訓練中の手先の位置情報から可動域の限界に近いサンプルのみを記録すれば多次元空間内における関節可動域が導出されます。また、抵抗運動(ロボットが人に負荷をかける運動)時のデータから、可動域の分布のみならず、どの方位に力が多く出せるかを調べられます。従来は療法士が測定



**作家
古屋 祐輔**
Yusuke Furuya

2012年3月 教育学部英語専修卒業
神奈川県藤沢市 出身

「埼大生には雑草魂というか、芯がしっかりしている学生が多いと思います。さまざまな意味で意識の高い学生も多い。大学側もそんな学生たちに対して懐が深い。発展、進化も必要ですけれど、よいところは変わらず、OBの誇れる埼大で在り続けて欲しいですね」

再入試を経て、埼大へ入学

この4月の在学生向けガイダンスで、教育学部の英語専修の学生に向けて、同専修の卒業生として少し話をさせてもらいました。内容は「英語教員になるだけが道ではない」。ほぼ英語の先生になることを目指している学生たちに対して、適した内容を捉え方次第だと思いますけれど、私の実体験を基にした進路選択の話は、今後進む道を選ぶときの参考になると思っています。

私は高校時代から国際福祉に関わる仕事に就きたいと考えて、愛知県にある福祉関係の私学に入学しました。しかし、そこでの勉学と思い描いていた像との隔たり、さらに自分にできることの限界を感じ、1年で退学し、埼玉大学教育学部に再受験のうえ入学しました。教員になることで、授業を通して生徒たちに国際関係、福祉関係の意識や知識を伝えられたらしいと考えての選択でした。英語専修にしたのは、国際福祉に興味を持つきっかけを与えてくれたのが、高校の英語教師だったから。その先生のようになりたいと思っていました。

ネパールとの関わりで、
自分のできることを探る

自身が福祉活動に関わり始めたのは、ネパールの孤児院CWCN(チャイルド・ワタバラン・センター・イン・ネパール)で柔道を教えている埼大卒業生と知り合い、その人の勧めで2年生の夏休みにネパールに行ってからです。約1ヶ月の滞在でしたが、とても得ることの多い体験になりました。一番大きかったのは、自分の考えの浅はかさを知ることができたことです。世界でも貧しい国のひとつとされるネパール、治安もよいとは言えない、そこで孤児となった子どもたち、イコールかわいそうで不幸な子どもたちと人々。そんな先入観をもしながら行ったネパールで、現地の人々の生活に触れて感じたのは、自分を不幸だと思っている人は少ないと想いは、上から目線の単に自分のものさしで測っただけの思いがけたと気付かされました。その後、CWCNの卒業生が働いている服飾会社のバイヤーとして、そこでつくった服を日本で販売したり、服のデザインをするなどしてネパールと日本を結ぶ役割を果たしてきました。

何回かネパールと日本を行って来て、その体験を学内外などで講演する機会を得て、好評を博すうちに、こういった形での活動が自分には合っていると思い始めました。普段は意識することもないネパールのこと、そこの子どもたちのことを国際関係や福祉支援の視点で語ることで、多くの学生や一般の方々に認識し、考えてもらえるのです。教師が講演者という立場に替わったけれど、思い描いていたことが達成できる手応えを感じていました。

大きな3つの転機を越えて

そんな折です。第3の転機となるできごとが我が身に振りかかりました。突然パニック障害になり、うつ病も併発して何もできない状態に陥ったのです。卒業後は本格的にネパールと関わる予定だったので、無理を押して2012年4月にネパールに渡ったのですが、より悪化させてしまい、強制帰国そして入院となりました。

病院ではリハビリで編み物や手作業を行っていましたけれど、医師の勧めもあり文章作成にも挑戦しました。5歳頃から現在までの自分を振り返って、考えていたこと、紆余曲折のできごと、病気のことまで、思いの丈を一字一句に込めていました。けっこうのめり込んで書き進むうちに一介の私小説ができあがり、文芸社に持ち込んだところ、文芸社セレクションに選ばれ、2014年4月に「私の瞳を見てください」というタイトルで上梓させていただきました。

いま肩書は『作家』としていますけれど、国際関係、福祉に対する認識を多くの人に広めたいという目標は変わっていません。

アウトプットする手段が教員から講演者、作家と変わってきただけです。このように、ひとつの目標を成し遂げるためにも道はさまざまあることを、そして挫折しても必ず道は開けることを、今後も小説や講演活動で伝えてゆけたらと考えています。



埼玉大学学生後援会は 埼大生を多方面から支援しています

埼玉大学学生後援会の主な支援事業

埼玉大学学生後援会では、学生の保護者の方からの会費および本学教職員のみなさまからの賛助金により、次のような種々の学生支援事業を行っています。

■就職活動の支援

平成25年度予算680万円

1. 就職ガイダンス援助費
2. 就職情報調査・提供援助費
3. 就職相談経費

学生の総決算である就職活動に対し、各種セミナー・合同企業説明会等の開催、就職相談体制の充実など、さまざまな就職支援事業を行いました。



■国際交流の支援

平成25年度予算315万円

1. 学生の海外派遣に伴う経費
2. 大学院生の海外における学会発表援助費
3. 留学生の交流事業に伴う援助

国際力のある学生を育成するために、学生の海外での論文発表、学生の海外留学、外国人留学生のための援助を行いました。



■学生表彰、自主的活動・課外活動の支援

平成25年度予算866万円

○学生表彰事業

○自主的活動等支援事業

1. むつめ祭(学園祭)援助費
2. 地域貢献等事業費

○課外活動助成事業

1. 大会・コンクール等への遠征援助費
2. 物品援助費

3. 課外活動団体外部講師経費

4. リーダーシップトレーニング研修援助費

5. 一般学生用貸出物品の整備

6. 課外活動施設維持管理支援経費

7. 関甲信体育大会当番大学負担経費

学生が自主的に行う活動や学園祭の支援、各サークルや課外活動を充実させるための支援、学術や競技会で優秀な成績を収めた等の模範となる学生を称える学生表彰などの支援を行いました。



■その他の支援事業、福利厚生費、事務費、予備費、積立金

平成25年度予算2,004万円

国立大学には、我が国の将来の発展を支える学術研究の推進と人材養成・確保において重要な役割があり、埼玉大学も、中規模ながら東京圏に位置する総合大学として、その一翼を担っていることはご承知のことと存じます。

このような使命達成のためには、本学に入学した学生が、卒業に至るまでに知、徳、体のバランスのとれた人間形成を果たすことが必須の条件となります。

埼玉大学におきましては、上記目的達成の一助とするために、教職員と学生の保護者との緊密な連携のもとに、側面から学生への支援を行うことを目的とした「埼玉大学学生後援会」を設立し、各種支援事業を行っております。

具体的な事業といしましては、学生表彰支援、就職支援、国際交流支援、地域交流支援、課外活動支援など、正課外の学生の活動に対する援助を行い、学生後援会の基金を有形無形に学生に還元しております。

国立大学の法人化後10余年来、埼玉大学においても、新たな視点に立って教育研究の質質向上に務め、多様かつ個性的な大学へと発展すべく大学改革に務めているところであります。

学生後援会につきましても、各種事業の一層の充実を図り、学生への支援をより良いものにしたいと考えております。

保護者の皆様方には、本会の目的をご理解の上、未入会の方においては、ご入会いただきたくご案内をさせていただきます。また、既にご入会の方におかれましても、増額いただければ幸いです。

出費多端の折、誠に恐縮ですが何卒格段のご協力をお願い申し上げます。

埼玉大学長 埼玉大学学生後援会名誉会長 山口 宏樹

【会 費】 一口 10,000円以上

【申し込み・納入方法】

・同封の「払込取扱票」(※口座名義上、加入者名は「学生後援会・学生教育研究災害傷害保険」となっております)により、最寄りの郵便局に払い込みをお願いいたします。

・「払込取扱票」では、埼玉大学学生後援会加入金を **1口分で案内しておりますが、2口以上でも納入いただけます。**

なお、会費につきましては、「払込票兼受領証」をもって領収書に代えさせていただきます。

●ご不明の点がございましたら、下記までご連絡ください。

埼玉大学学生後援会

〒338-8570 さいたま市桜区下大久保255
担当 埼玉大学学務部学生支援課
TEL 048-858-9042(平日 9:00~17:00)

学生表彰

日本で世界で活躍する埼大生

学術研究や課外活動の場で、埼大生が大活躍しています。



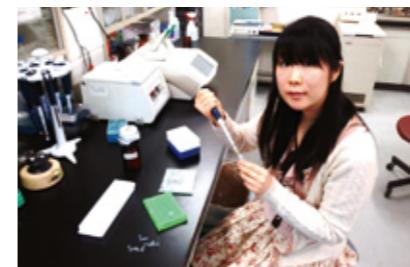
理学部分子生物学科
児玉 優太

昨年、東部国公立大学水泳競技大会において200m個人メドレーと400m個人メドレーで優勝、関東甲信越大学水泳競技大会において100m自由形と400m個人メドレーで優勝し学生表彰を受賞しました。

この受賞を励みとし、埼玉大学水泳部のエース、また主将としてチーム全体をまとめて今後も活躍したいと思っています。



大学院理工学研究科
博士前期課程
本江 彩



工学部機能材料工学科で初めての早期卒業生で、現在は埼玉大学大学院理工学研究科に進学し、研究を続けています。

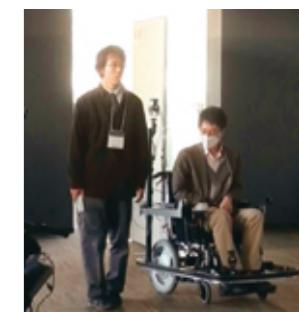
私の研究テーマは、「悪性度の高い脳腫瘍(グリオblastoma)の治療に関する研究」で、グリオblastomaの治療因子となるDNA修復酵素O6-methylguanine DNA methyltransferase (MGMT)の活性を測定するための、非放射性同位体依存で簡便な方法を開発し、さらに検出感度を高める方法を開発、検証しています。

課外活動では邦楽部琴吹会に所属し、第44回定期演奏会を開催するなど、学業と共に充実した学生生活を送っています。



大学院理工学研究科
博士前期課程
鈴木 亮太

理工学研究科・コンピュータビジョン研究室において、「同伴者に自動付随するロボット車椅子の研究」を行っています。指導教員の方々や同研究グループの方々のご尽力を頂き、研究の成果として、国際学会「HRI 2013」が実施する「8th ACM/IEEE International Conference on Human-Interaction」において、開発されたロボット車椅子のデモを行いました。その結果、学会参加者投票により「最優秀デモンストレーション賞」を受賞いたしました。



意気込みを一言!

■教養学部教養学科2年
渡邊 奈帆

ジャーナリストに憧れていて、取材をしたり、記事を書いたりという仕事ができるということで、参加しました。この活動を通して自分自身をもっと成長させられるように、そして埼玉大学の魅力を発信できるように、頑張っていきたいと思います。

■経済学部経営学科2年
中村 麻鈴

いろいろな人と交流をしたいと思い参加しました。ここで活動を通して埼玉大学全体のためになることができたらいいと思います。

■工学部応用化学科2年
松山 裕樹

私は情報を発信することに魅力を感じます。そして、情報というのは、人に伝わらないと価値が下がってしまうと思うので、広報室で情報を届けるお手伝いをさせていただきたいと思います。頑張ります!

■経済学部社会環境設計学科3年
伊澤 美沙

私は英語科の短大から埼玉大学経済学部に編入しました。広報の仕事を通じて埼玉大学をもっと知り、県内外問わず認知度を高められたらと思います。

■経済学部経営学科2年
大塚 愛真

企業訪問などの貴重な体験ができるのは大学生活ならではだと思い、サポートスタッフに入させていただきました。これからの活動を通して、見たこと、感じたことを同じ大学生の皆さんに伝えたいけるように頑張っていきたいです。

■教育学部教育心理カウンセリング専修3年
岡田 珠実

「何か新しいことに挑戦したい、人間関係の輪を広げたい」という思いから、サポートスタッフへの参加を決めました。

楽しいこと、人と話すことが大好きなので、持ち前の明るさを活かし、埼玉の魅力をより多くの人に伝えられるように頑張ります。

広報室に新たな風 「学生サポートスタッフ」発足

2014年度より埼玉大学広報室では、新たな試みとして「広報室学生サポートスタッフ」を発足しました。これは、学生ならではのフレッシュな目線を、広報活動に生かすことを目的としています。

主な活動として

- ①各界で活躍している卒業生を訪問し、インタビューを行う。
- ②広報誌の企画・取材のサポートを行う。
- ③各種イベントにおいて、埼玉大学のマスコットである「メリンちゃん」に変身する。
- ④広報グッズの企画を行う。

等々を予定しています。

メンバーの募集は、大学公式ホームページでの案内や学内掲示を通じて行われ、さまざまな学部、学年から20人の有志が集まりました。



★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

この12人のほかに、経済学部夜間主コースの鈴木洋子さん、教養学部の沼倉翔さん、寺田悟士さん、笛生彩さん、教育学部の秋馬里菜さん、島村奏衣さん、山西彩美さん、そして工学部でマレーシア出身のムハマド・イザーンさんの8人も、メンバーとして活動していく予定です。

国籍、学部、学年もさまざまに集まった20人。それぞれが個性を活かしながら、意見を出し合い、広報室に新たな風を吹き込むことを期待されています。

これからの「学生サポートスタッフ」20人の活躍に、ぜひとも注目してください。

意気込みを一言!

■経済学部社会環境設計学科2年
黒澤 美保

埼玉大学についてもっと知つてもらえるように活動していきたいです。

■経済学部経営学科2年
荻原 美里

この企画を通して、様々な卒業生や地域・企業の方々との交流が非常に楽しみです。また、広報誌の企画・取材サポートなど、普段携われない分野に協力することができることにも魅力を感じています。

■理学部基礎化学科2年
鄧 心妍

これから展開されていく活動を通して、より多くの人間関係を築き、社会人となったときに役に立つ様々な能力を身につけ、また、自分のメリットをアピールしたいと思います。やはり若者、特に外国人として、途中でいつか予想しがたい困難に遭うことは避けられないとは思いますが、これからもっと心強く立ち向かっていこうと思っています。今後は担当者の方や他の学生たちと協力しながら、頑張っていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

■教養学部教養学科4年
中村 和輝

メリンちゃんと共に、熱く、埼大の良さを全国の人々に伝えたい!との想いで志望させていただきました。サポートスタッフメンバーを含め、多くの方々と協力し、埼大の更なる発展に貢献したいと思います!

■教養学部教養学科2年
吉村 陸

広報室サポートスタッフの一員として、埼玉大学の魅力をたくさん伝えられたらと思います!!

■日本語教育センター STEPS生
李 孟群

中国の東北師範大学からの交換留学生です。過去に2年間、記者と編集者を担当したことがあります。ちょっとしたご縁があって広報室学生サポートスタッフの仕事に出会うことができました。生まれながらの情熱とこの仕事を経験してはじめて分かった情熱が共にあるという理由で応募しました。自分なりの力を発揮し、精一杯頑張ります!

(順不同)



Q1 埼玉大学に来たきっかけは何だったのですか?



私は、アゼルバイジャンのバー国立大学で日本語や日本文化を学んでいますが、大学以外では学ぶ機会はありません。

長年の間、日本に大変興味があり、日本の文化生活に深い関心を持ち続けていたことから、日本語や日本文化を極めたいと考え、日本にきました。留学先に埼玉大学を選んだのは、埼玉大学での留学経験のある先輩から、ぜひ行くべきだと強く薦められたからです。

Q2 日本に来てどのような印象を持ちましたか?

日本に来て思ったことは、日本人は我慢強いなと思ったことです。例えば、アゼルバイジャンでは、満員電車にスーツケースのような大きな荷物を持って乗ろうとすれば周りから必ず文句を言われてしまします。日本ではこのようなことはありません。また、日本人はどこに行っても親切で、サービス精神が旺盛だと感じました。日本のおもてなしの心は世界一だと思っています。

Q3 日本ではどんな生活を送っていますか?

埼玉大学に来てすぐに裏千家茶道部に入部しました。日本文化の中で特に茶道には強く惹かれており、日本の伝統文化を学べることをとても喜んでいます。また、部員と楽しく話していることで、知らず知らずのうちに日本語が来日前よりも上手く話せるようになっていることに気づき、本当に嬉しかったです。

いまは国際交流会館に住んでいますが、さまざまな世界各地から来た人と出会えたことでたくさんの友達ができ、いろいろな国の話を聞けたことで視野が広まりました。また、6人の日本人学生

| 留 | 学 | 生 | イ | ン | タ | ピ | ュ | ー |

国費留学生(日本語・日本文化研修留学生)
経済学部

MURADLI AYDAN
【ムラドリ アイダン】

アゼルバイジャンから来たアイダンさんに聞く

「日本の おもてなしの心は 世界一！」

も住んでいて、パーティーを開いて交流を深めたり、困ったときは助けていただいている。日本人学生が多く住んでいればより日本のことを知る機会となり、逆に多くの人にアゼルバイジャンのことを伝えられると思いました。



Q4 埼玉大学では何を学んでいますか?

日本語や日本文化を学ぶのはもちろんですが、その他に経済を学んでいます。経済に関することにも非常に関心を抱いており、たくさんの授業を受けています。ときには専門知識が難しいと感じるときもありますが、理解しようと必死になって努力しています。

Q5 今後の抱負をお聞かせください

日本には1年間の留学を予定しており、半年がたちました。日本に来て本当に良かったと思っています。留学生活はときにはつらいなと感じるときもありますが、新鮮な世界に触れたり、多くの人と出会えたりと貴重な経験もしています。残る半年間はもっと留学生活を充実させるように頑張っていきたいです。将来は、日本の大学院に進学することを目指して、もっと日本のことを勉強し、母国と日本との架け橋となって社会に貢献したいと思っています。





2013.10.07-10.18
JICA国別研修「ハイチ教育復興・開発セミナー」を実施

2010年に地震で壊滅的被害を受けたハイチから教育関係者を招き、「ハイチ教育復興・開発セミナー」研修を実施しました。この研修は国際協力機構(JICA)の技術協力スキーム(国別研修)により、JICAより本学に委託される形により、本学、埼玉県およびさいたま市との3者が共同で実施しています。



2013.10
実習工場がリニューアル

昭和39年に建築されて以来、およそ50年間活躍してきた「工学部実習工場」がこの度「実習工場・研究実験棟」としてリニューアルされました。



2013.10.18
全学一斉避難訓練を実施

震度5強の大規模地震を想定した全学一斉避難訓練を実施し、学生・教職員および警備員・生協等常駐業者約3,000人が参加しました。一斉避難訓練後は、桜消防署員の協力の下、防災ビデオの視聴、通報訓練、三角巾を使っての応急処置訓練、AED講習などが行われ、その後、建物5階からの避難訓練、消火器を使った消火訓練などが行われました。



2013.10.19
「埼玉ワールドカップ2013 Fall」を開催

埼玉スタジアムにおいて、県内の留学生と県内企業の方がフットサルを通じて交流を深めるイベント「埼玉ワールドカップ2013 Fall」が開催されました。

県内5大学より留学生112人、8企業より82人、総勢194名が参加し、さわやかな空気の下、汗を流しました。

02

04



2013.11.26
本学の学生が埼玉県知事に政策提言

本学の学生が上田清司埼玉県知事に政策を提言する「知事と学生の意見交換会」が本学で開催され、上田知事と学生が意見交換を行いました。上田知事が「私たちでは考えられない固定観念を破る驚く話もあった」と感想をいただきました。



2013.12.09
イルミネーション点灯式が行われました

今年で10周年を迎えた埼大イルミネーション点灯式が埼大前公園において行われました。埼玉大学周辺を明るくしていくこと、地域と学生が一層かかわりを深めていくことを目的として学生サークル「埼玉大学イルミネーションプロジェクト実行委員会」を中心に各方面からの協力を得て行われており、期間中多くの人に楽しんでいただきました。



2013.12.12
日本サッカー協会最高顧問川淵三郎氏による講義を開催

教養学部で開講されている企画授業「まちづくり論Ⅱ-サッカーと地域社会」に日本サッカー協会最高顧問である川淵三郎氏を招き、「夢があるから強くなる~人々をひきつける魅力ある組織」と題して講義が行われました。



2013.12.14
第14回埼玉大学教育学部音楽教育講座教員による演奏会「音楽の贈りもの」を開催

彩の国さいたま芸術劇場音楽ホールにおいて、教育学部音楽教育講座教員による演奏会「音楽の贈りもの」を開催しました。親しみやすいクラシックの名曲や当日のための書き下ろし作品で構成され、市民の方々に楽しんでいただけた大学の地域貢献活動の一環として毎年行われています。

15



2013.10.01-12月
埼玉大学連続講座「社会に学ぶ2013」を開催

県内の優良企業を育て牽引してきた経営者を迎えて、学生に対して、企業活動の社会的意義や企業人としての厳しさ・おもしろさを語っていただくとともに、学生と経営者が直接対話する場を設けた講座を、埼玉経済同友会のご協力の下、全4回開催しました。



2013.11.02
ホームカミングデーを開催

同窓生が旧友や恩師と再会し、また、現役教職員との親睦を深めていただくとともに、「母校の近況を知りたい」「お母さんと一緒に」という思いを込め、埼玉大学同窓会のご協力の下、ホームカミングデーを開催しました。多くの同窓生が母校に足を運んでくださいました。



2013.11.02-11.04
「むづめ祭」を開催

今回が64回目であることから「64(むし)できない祭りが埼大にある」をテーマとして開催。地域の方々の参加もあり、会場は大いに盛り上がりいました。



2013.11.15
埼玉大学産官連携協議会「大麦食品研究会」が「食のモデル地域構築計画」に認定

2013年7月に設立した「埼玉大麦食品普及・食のモデル地域実行協議会(会長:円谷教授)」による、埼玉県における大麦食品の普及に関する取り組み計画が、農水省の「食のモデル地域構築計画」に認定され、認定証が授与されました。

07

08



2013.12.16
バルセロナ五輪柔道銀メダリストの溝口紀子さんが講演

「性と柔ースポーツのジャンダーを考える」と題して、本学在学中のバルセロナ五輪において柔道で銀メダルを獲得された溝口紀子さん(現:静岡文化芸術大学文化政策学部准教授)による講演が行われました。



2013.12.17
日米韓の視点から「アジアの共存と発展」について考える国際シンポジウムを開催

国際シンポジウム「21世紀はアジアの世紀か? -環境問題、経済格差、人間の安全保障-」を開催しました。大学関係者(教職員、日本人学生、外国人留学生)を含めて100名以上の参加があり、活発な意見交換が行われました。



2014.01.20
「大学生のための金融・消費者教育セミナー」を開催

埼玉大学、埼玉県および埼玉りそな銀行の連携による「大学生のための金融・消費者教育セミナー」を開催しました。銀行業務の基礎知識や金融商品との正しい付き合い方など、現役銀行員から分かりやすく説明を受けました。



2014.02.17
シンポジウム「埼玉県のグローバル人材としての留学生-日本社会は留学生に何を求めているのか-」を開催

埼玉大学と埼玉県多文化教育研究協議会の主催で、シンポジウム「埼玉県のグローバル人材としての留学生-日本社会は留学生に何を求めているのか-」を開催しました。参加者は125名で、会場の総合研究棟シアター教室は満員となりました。



2014.04.08
平成26年度入学式を挙行

大宮ソニックシティ大ホールにおいて、平成26年度の入学式を行いました。

5学部合わせて1,780名(3年次編入を含む)の新入生を迎えました。



2013.11.17
教育学部音楽専修生による音楽会「埼玉大学フレッシュコンサート」を開催

埼玉りそな銀行本店講堂において、今年で10回目となる教育学部音楽専修生による音楽会「埼玉大学フレッシュコンサート」を開催しました。市内の方を中心とした約200名の来場者の耳を魅了しました。



2013.11.18
平成25年度ハラスマント防止研修会を開催

株式会社ヒューマン・クリエイティブの樋口講師を招き、学生・教職員を対象としたハラスマント防止研修会を開催しました。「ハラスマントのグレーディングを考える」と題し、特に指導とハラスマントの境界線・グレーディングを中心とした講義が行われました。



2013.11.20
第14回埼玉大学産学交流会「テクノカフェ」を開催

第14回埼玉大学産学交流会「テクノカフェ」が、川口商工会議所との共催で「素材」「ものづくり加工技術」をテーマに開催されました。本学学生5名から市政やまちづくりに対するさまざまな意見や提案がなされ、予算委員の市議との間で活発な意見交換が行われました。

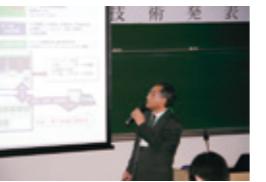


2013.11.21
さいたま市議会予算委員会協議会が本学で開催

「若者にとって魅力的な都市とは」をテーマに、さいたま市議会予算委員会協議会が本学で開催されました。本学学生5名から市政やまちづくりに対するさまざまな意見や提案がなされ、予算委員の市議との間で活発な意見交換が行われました。

11

12



2014.03.03
第24回技術発表会を開催

総合技術支援センターは「第24回技術発表会」を開催しました。本学教職員の他に、茨城大学、群馬大学、千葉大学、東京工業大学などから技術職員の参加もあり、技術交流を深めるとともに、質疑応答では活発な意見交換が行われました。



2014.03.04
社会調査研究センター開設記念シンポジウム・祝賀パーティーを開催

社会調査研究センターは、本学において社会調査士・専門社会調査士の養成を行うとともに、埼玉県内や全国の報道機関、自治体、企業からの依頼に応じて調査や世論調査を行ふことを目的に平成25年10月に設置されました。

当日は、報道機関、自治体、企業など各方面から130名の方々にご出席をいただきました。



2014.03.25
平成25年度卒業式を挙行

さいたま市文化センターにおいて平成25年度の卒業式を行いました。



2014.04.08
平成26年度入学式を挙行

大宮ソニックシティ大ホールにおいて、平成26年度の入学式を行いました。

5学部合わせて1,780名(3年次編入を含む)の新入生を迎えました。

23

09

10

11

21

22

23

24